

GOD WITH US

Part 10: EARLY LETTERS

Message 28 – Philippians

Living as a Citizen of Heaven

Philippians 3&4

January 17, 2021

神はわれらと共に

パート10：初期の手紙

第28メッセージ - ビリビ人への手紙

天国の市民として生きる

ビリビへの手紙第3, 4章

はじめに

ビリビ人への手紙の前半のノートで述べたように、ビリビの教会の一致において問題がありました。問題の原因に焦点が置かれました。どういうわけか、ビリビの信徒たちは、天におられる王と天における彼らの国籍よりも、地上における人間関係の問題と議題に固執するようになっていました。この手紙のパウロの主な目的は、彼らが天上のことがらに焦点を置くことができるように導くことであり（ビリビ2:5-8）、彼らの一致（ビリビ2:1-4,14）が回復し、彼らによって世への証言が効果的になるように導くことでした（ビリビ2:15）。ローマの獄中から、パウロの言葉とその模範によって、この世の中の混乱の「はるか上に生きる」方法を教えました。イエス様をより親密に知りたいと願うよう勧め（ビリビ3:10）、また、神に喜んでいただくためにも、彼ら自身のためにも、生

活の中で神に働いていただくように教えました（ビリビ2:13）。ビリビの教会へのパウロの警告を私たち自身のものとして受け止めることができますように。

賞に向かって走る：3：1-21

ここでパウロは、天の賞に向かって走るためにはどうすればよいのか、自らの模範によって素晴らしい洞察を与えています。…そうするのは、キリスト・イエスによって捕えられているからである（ビリビ人3：12）。私たちが道からそれせようとする欺瞞や錯乱に囲まれるこの世の中で、天国に向かって走る旅は生涯続きます。この手紙は、自伝的でもあります。パウロがキリストへの信仰をいかに生き抜いたかについての洞察が得られます。天国の市民でありながら、この地上で生きる方法を学ぶのために役立つ見通しをもたらす素晴らしい章です。

-悪い働き人たちに気をつけなさい：3：1-4

ここでは、パウロがテモテとエパフロデトの例について述べた前半の内容とは反対方向へと移ります（第2章）。パウロは、テモテとエパフロデトの例を、福音を歪め、人々をモーセのユダヤ人のための律法の束縛へ引き込もうとしていた、利己的な利益のために教えていた偽教師と対比させています。

3:2 あの犬どもを警戒しなさい。悪い働き人たちを警戒しなさい。肉に割礼の傷をつけている人たちを警戒しなさい。 **3:3** 神の霊によって礼拝をし、キリスト・イエスを誇とし、肉を頼みとしないわたしたちこそ、割礼の者である。 **3:4** もとより、肉の頼みなら、わたしにも無くはない。もし、だれかほかの人が肉を頼みとしていると言うなら、わたしはそれをもっと頼みとしている。（ピリピ人3：2－4）

ここでの「肉に割礼の傷をつけている人たち」とは、真に救われるためには、ユダヤ人（割礼を受けた者）になり、モーセの律法に完全に従う必要があると異邦人（ギリシャ人とローマ人）キリスト者に教えていた偽教師、フダイサンテを指しています（ガラテヤ人を悩ませたのと同じ偽教師。参照：使徒15章）。他の宗派によってパウロの宣教とメッセージに反対する者たちも存在しましたが、フダイサンテは、パウロの宣教全体を通しての主な反対者でした。

-律法主義のユダヤ人であったパウロ自身の過去：3：5-6

以前パウロも、「モーセの律法に従うことによる救い」に関して同じ立場に立っていたので、フダイサンテの教えの内容をよく知っていました。

3:5 わたしは八日目に割礼を受けた者、イスラエルの民族に属する者、ベニヤミン族の出身、ヘブル人の中のヘブル人、律

法の上ではパリサイ人、 **3:6** 熱心の点では教会の迫害者、律法の義については落ち度のない者である。（ピリピ人3：5，6）

以前パウロは、初代教会の主な迫害者であった程までに、「律法の番人」として長けていました（使徒9：1,2）。パウロは、当時の主要なユダヤ人宗教指導者の長老、ガマリエルの下で教育を受けました。しかしパウロの劇的回心（使徒9：3-6）の後、善い行いに基づいてではなく、信仰によって、キリストが内に住んでくださることから来る、まったく異なる類の「義」を見出だしました。このようにパウロは、キリストによる真の救いを知るという素晴らしい卓越した賜物と比較して、自身の以前の業績のすべてを損（ちりあくた）であると考えました。

-キリストから来る義：3：7-9

有名な英国の新約聖書学者のF.F.ブルースは、『パウロは「心が解放された使徒」になった』と言いました。パウロはキリストを通して神の恵みを発見しました。この恵みは、パウロの鼓動、いのち、宣教の中心となりました。

3:7 しかし、わたしにとって益であったこれらのものを、キリストのゆえに損と思うようになった。 **3:8** わたしは、更に進んで、わたしの主キリスト・イエスを知る知識の絶大な価値のゆえに、いっさいのものを損と思っている。キリストのゆえに、わたしはすべてを失ったが、それらのものを、ふん土の

ように思っている。それは、わたしがキリストを得るためであり、**3:9** 律法による自分の義ではなく、キリストを信じる信仰による義、すなわち、信仰に基く神からの義を受けて、キリストのうちに自分を見いだすようになるためである。

(ピリピ人3：7-9)

パウロは、ローマ人への手紙第7章で、「貪り」という罪との自身の闘いについて述べています。モーセの律法に従おうとする彼の外面的な規律ある体制によって、「貪ってはならない」(申命記5:21)というモーセの十戒の10番目の戒めを破らずにいることは不可能であったことを知っていました。人間の基準によれば、パウロは他の人よりも優れていたが、聖なる神の御前で実際に法を守ることは不可能であったことを知っていました。

-キリストによる成長の追及：3：10-16

キリストにある神の恵みを知るようになることは出発点ですが、パウロは、キリストによる成長を追及し続けたいと願いました。キリスト・イエスにおいて上に召してくださる神の賞与を得るために努めました。

3:10 すなわち、キリストとその復活の力とを知り、その苦難にあずかって、その死のさまとひとしくなり、**3:11** なんとかして死人のうちからの復活に達したいのである。**3:12** わたし

がすでにそれを得たとか、すでに完全な者になっているとか言うのではなく、ただ捕えようとして追い求めているのである。そうするのは、キリスト・イエスによって捕えられているからである。**3:13** 兄弟たちよ。わたしはすでに捕えたとは思っていない。ただこの一事を努めている。すなわち、後のものを忘れ、前のものに向かってからだを伸ばしつつ、**3:14** 目標を目ざして走り、キリスト・イエスにおいて上に召して下さる神の賞与を得ようと努めているのである。**3:15** だから、わたしたちの中で全き人たちは、そのように考えるべきである。しかし、あなたがたが違った考えを持っているなら、神はそのことも示して下さるであろう。**3:16** ただ、わたしたちは、達し得たところに従って進むべきである。

(ピリピ人3：10-16)

パウロは、知識と経験において、主について、知りうる限りを心から知りたいと願いました。たとえそれがキリストの苦しみを非常に深いレベルで分かち合うことを意味したとしても、キリストとの交わりの中で最大限に生きることを願いました。パウロ自身がイエス・キリストの信者たちを迫害してしまったので、主が体験された苦しみや迫害して苦しめてしまった初期のキリスト者たちと同等の苦しみを経験することを恐れませんでした。パウロは、ローマの競走者や、競走用の馬車の御者の比喻を描いています。(御者は、競走中に、うしろを振り返ったりして時間を無駄にしない。全神経を緊張させ、あらゆる努力を集中さ

せて、決勝点に達しようとする。) 競走者や競走用の馬車の御者の様に、「キリスト・イエスによって捕えられているから」(ピリピ人3:12) 追及するのです。キリストは、「異邦人のための光」としてパウロを用いるために「捕らえ」ました(使徒9:15,16)。パウロは最後にエペソの長老たちと会ったとき、自身の人生の目標を同様に説明しました：

20:24 しかし、わたしは自分の行程を走り終え、主イエスから賜わった、神のめぐみの福音をあかしする任務を果し得さえしたら、このいのちは自分にとって、少しも惜しいとは思わない。(使徒20:24)

「死人のうちからの復活に達する(ピリピ3:11)」ことによって、いつか復活することを希望していたという意味ではありません(復活することは、パウロにとって確信でした)。むしろ、イエス様の苦しみに似た経験をすることによって、今、この人生でイエス様の復活の力を知ることについて言及していました。別の箇所では、キリストの苦しみを分かち合う特権について語っています(ピリピ人1:25,26)。

『イエス様を知り、イエス様を知ってもらおう。』という私たちのスローガンは、ピリピ人への手紙第3章等の箇所から来ています。パウロは、救いの時点で先ず「イエスを知る」ようになりました。その後、更に深いレベルで「イエス様をもっと知るために」努めました。その間常に、自身の人生と

言葉を通して「イエス様を世に知らせ」、他の人々が救い主と共に霊的な旅を歩み始めることができるように尽くしました。あなたは、イエス様をもっと知りたいと思っておられるでしょうか？神は、イエス様を世に知らせる機会をも与えてくださっています。それらの機会をどのように活用されていますか？

-正しい模範に従う：3：17-21

ピリピの信徒にとっては、従うべき良い模範(パウロ、テモテ、エパフロデトなど)がありました。悪い模範もありました。すでにパウロは、フダイサンテ(律法主義のユダヤ人)による危険な教えについて警告しました。ここでさらに、「キリストの十字架に敵対して歩いている者」について警告します。

3:17 兄弟たちよ。どうか、わたしにならう者となってほしい。また、あなたがたの模範にされているわたしたちにならって歩く人たちに、目をとめなさい。**3:18** わたしがそう言うのは、キリストの十字架に敵対して歩いている者が多いからである。わたしは、彼らのことをしばしばあなたがたに話したが、今また涙を流して語る。**3:19** 彼らの最後は滅びである。彼らの神はその腹、彼らの栄光はその恥、彼らの思いは地上のことである。**3:20** しかし、わたしたちの国籍は天にある。そこから、救主、主イエス・キリストのこられるのを、わたしたちは待ち望んでいる。**3:21** 彼は、万物をご自身に従

わせうる力の働きによって、わたしたちの卑しいからだを、ご自身の栄光のからだと同じかたちに変えて下さるであらう。(ピリピ人3：17-21)

偽教師たちの「心は地上のものに向けられていた」のです。彼らの食欲、欲求、価値観等が議題を決定しました。一方パウロは、この地上にいる間、「天国の市民」として生き抜きました。ギリシャ語で「国籍」は「politeuma」と言い、これから「politics (政治)」という言葉が生まれました。パウロの「政党」は、天国の王とその御国にありました。

アメリカの様な民主主義社会は、クリスチャンが信念と価値観を反映する個人や政党を支持するのに最もふさわしい社会です。同時に、地上の政治や立場に、より焦点を合わせ、天国の価値観、戦略、目的に焦点を合わせなくなってしまうと不健全になります。地上の「政治」がモーセの律法であったピリピのユダヤ人は(キリストが来られ、モーセの律法を成就した後も)、自分たちも含め、イエス様を信じる者たちをその道から外れた方向へ導きました。現代、「政治の偶像崇拜」は、信者にとっても、キリスト教の証言にとっても致命的です。「第一に天国の市民」であるアメリカのクリスチャンとして、キリストへのへりくだりと敬意を持って、地上の特定の政治グループを支援することは、私たちに与えられている特権です。したがって、地上の政治に従事するとき、私たちの「ポリテ

ウマ(国籍)」は天国にあり、私たちが待つ真の王は天国から来られることを忘れてはいけません。イエス様だけがこの地球に最終的に私たちを満足させてくださる政府をもたらすことができになります。あなたの忠誠心はどこに集中していると思いますか？

最終的な訴え：4：1-23-2

二人の女性間の一致を促す：4：1-3

ユウオデヤとスントケが一致できていなかった理由は明らかにされていませんが、これはピリピ全体のより広い問題であったと考えられます。パウロが二人の名前を挙げたという事実は、二人が教会で影響力のある人物であり、二人の違いが広範囲に影響を与えていたことを示しています。

4:1 だから、わたしの愛し慕っている兄弟たちよ。わたしの喜びであり冠である愛する者たちよ。このように、主にあって堅く立ちなさい。**4:2** わたしはユウオデヤに勧め、またスントケに勧める。どうか、主にあって一つ思いになってほしい。**4:3** ついては、真実な協力者よ。あなたにお願いする。このふたりの女を助けてあげなさい。彼らは、「いのちの書」に名を書きとめられているクレメンスや、その他の同労者たちと協力して、福音のためにわたしと共に戦ってくれた女たちである。(ピリピ人4：1-3)

ほんの数人の不一致が教会全体の一致を崩壊させ、神の働きを破壊させてしまうことがあります。ピリピ人への手紙第2章2節で、パウロは会衆に、「**2:2** どうか同じ思いとなり、同じ愛の心を持ち、心を合わせ、一つ思いになって、わたしの喜びを満たしてほしい。」と忠告しています。パウロは、2人の最愛の友がお互いの違いを解決することができなくていたことに悩まされました。イエス様は、盗人であるサタンの目標は、「**10:10** 盗人が来るのは、盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするためにほかならない。わたしがきたのは、羊に命を得させ、豊かに得させるためである。(ヨハネ 10:10)」と言われました。サタンは人間関係と教会を破壊するために不一致を用います。パウロは、その不一致が解決されることを懇願しました。仲介者が必要な場合もありますが、何があっても、サタンに一致を盗まれ破壊する足がかりを与えないために注意しなければなりません。また、この2人の女性は、かつてパウロと共に働いた労働者で、友人であったことに注意する必要があります。影響力のある指導者と関わりを持つことは、その友人として知られている間、誇ったり、理屈っぽく振舞うこと等によって、指導者の影響を妨げないように努める責任を伴います。

「いのちの書」(ピリピ4:3)は、いくつかの聖書箇所而言及されており、イエス・キリストの血によって贖われた人々の名前が含まれているため、「子羊のいのちの書」とも呼ばれ

ます。私たちの名前がいのちの書に記されているかどうかを確かめる方法はあるのでしょうか？自分の罪のために十字架で死んでくださったイエス・キリストを信じ、救い主として受け入れることによってです。ヨハネの黙示録第3章5節で、キリストは、『その名をいのちの書から消すようなことは決してしない。』と言われました。死も生も、天使も支配者も、現在のものも将来のものも、力あるものも、**8:39** 高いものも深いものも、その他どんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスにおける神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのである。(ローマ8:37-39) 誰にも羊たち(真の信者)をイエス様と父なる神の手から奪い去る者はない。(ヨハネ10:28-30)。

-祈りで不安に対抗する：4：4-7

ピリピの教会に宛てての喜びについての教えは、他のどのパウロの書簡よりも強調されています。ここでパウロは、神との喜ばしい歩みの鍵を教えます。祈りで不安に対抗することです。

4:4 あなたがたは、主にあっていつも喜びなさい。繰り返して言うが、喜びなさい。**4:5** あなたがたの寛容を、みんなの人に示しなさい。主は近い。**4:6** 何事も思い煩ってはならない。ただ、事ごとに、感謝をもって祈と願いとをささげ、あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい。**4:7** そうすれば、

人知ではどうも測り知ることのできない神の平安が、あなたがたの心と思いを、キリスト・イエスにあって守るであらう。（ピリピ人4：4-7）

ここに織り込まれている感謝をもってという言及に注意しましょう。感謝をもってとは、神が私たちの祈りを聞いてくださることの感謝を示すだけでなく、神が働いてくださっているように感じられない様なきでも、神が祈りに応えて働いておられることを信頼するという点で重要です。私たちが祈りの内に、主に不安を委ねるとき、主は心と思いを平安で守ってくださると約束してくださっています。これは私たち全員が必要とする強力な引き換えです。生活のストレスを軽減するために、不安と引き換えに神の平安を与えてくださるのです。神の平安は、理解を超越します。私たちの状況のすべてを理解することはできませんが、神の超自然的な平安は、実際、理解できるものを超えており、恐れや心配から守ってくれます。

-尊いことがらを心にとめる：4：8

4:8 最後に、兄弟たちよ。すべて真実なこと、すべて尊ぶべきこと、すべて正しいこと、すべて純真なこと、すべて愛すべきこと、すべてほまれあること、また徳といわれるもの、称賛に値するものがあれば、それらのものを心にとめなさい。

（ピリピ人4：8）

パウロは頻繁に、キリストとの歩みにおける心の役割を強調してきました（参照：ローマ8：5-13、コロ3：2、エペソ4:23）。ピリピには、世俗的な事柄に心を向けていた人たちがいました（ピリピ3:19）。しかし、そのような心は、キリストの体にふさわしい一致と平和を生み出すことは決してありません。

何があなたの考えを形作っているのでしょうか？ 尊い事柄を心にとめようとされるなら、先ず尊い情報源を用いなければなりません。そのためには、「**心を新たにすることによって、造りかえられる（ローマ12：2）**」ことが重要です。これは日々の選択です。私たちの心を天からの声に調整し、この世の尊くないおしゃべりを無くすためです。心にとめることがらは、態度、不安、行動を形作るのので気を付けましょう。「彼は、心のうちで考えているとおりの者であるからだ。」（英欽定訳 箴言23：7）。

-パウロ自身による弟子としての模範：4：9

Discipleship とは「Disciple（弟子）」という語源、つまり、学ぶ者または従者から来ています。弟子になるには、キリストのより成熟した信者を模範とし、学び、受け取り、聞き、見ることです。パウロは信者たちに、パウロが学んだこと、受け取ったこと、聞いたこと、見たことを実践するように勧めています。

3:17 兄弟たちよ。どうか、わたしにならう者となってほしい。また、あなたがたの模範にされているわたしたちにならって歩く人たちに、目をとめなさい。（ピリピ人3：17）

皆、新しい信者たちに私についてきて学ぶように勧めているか、もしくは、より成熟した信者から学ぶ必要があります。これは聖書全体に示されているパターンです。イエス様は、特定の人々に「わたしについてきなさい。…」（マタイ**4:19**）と招くことによって、地上での宣教を開始されました。あなたは誰に注いでおられるのでしょうか？ あなたの「霊的な子」、「弟子」は誰ですか？ または、誰があなたに注いでいますか？ あなたは誰に教えられているのでしょうか？

-パウロの満たしの模範：4：10-13

パウロが獄中にある間、多くの必要がありました。そして、ピリピ人はそれらの必要を満たす助けとなるために忠実でした。それでも、パウロは自分の満たしのための必要以上に、どんな状況にあっても満足する秘訣を学んだことを彼らに知ってほしいと願いました。

4:10 さて、わたしが主にあって大いに喜んでいるのは、わたしを思う心が、あなたがたに今またついに芽ばえてきたことである。実は、あなたがたは、わたしのことを心にかけてくれてはいたが、よい機会がなかったのである。**4:11** わたしは

乏しいから、こう言うのではない。わたしは、どんな境遇にあっても、足ることを学んだ。**4:12** わたしは貧に処する道を知っており、富における道も知っている。わたしは、飽くことにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、ありとあらゆる境遇に処する秘訣を心得ている。**4:13** わたしを強くして下さるかたによって、何事でもすることができる。（ピリピ人4：10－13）

マタイの福音書第6章23-34節で、イエス様は満たしについて話されています。満たされているための「秘訣」は、1) 私たちにとって本当に必要としていることを天の父が正確にご存じであられることを悟り、2) 神の時と知恵に従って、それらの必要を満たして下さると信頼することです。今、あなたの人生に満たされるための「秘訣を学ぶ」必要がある状況がありますか？ 満たしのもう一つの側面は、私たちが「必要」と考えるものの多くは、実際には望みや欲望であって、「必要」ではないということを確認することです。あなたの人生のどのようなものが欲望であり、必要でないものでしょうか？ 望むものが与えられていなくても、満たされていることを学んでおられますか？

-贈り物への感謝：4：14-20

ピリピの教会は、「参加する」教会でした（参照：ピリピ1：5、パウロがこれを真っ先に認めています。）。リディアは、新しい教会

が植えられていた頃から、「初日から」直ちに参加した最初の模範でした。リディアは、パウロとその仲間に、教会の立ち上げのために彼女の家にとどまり、用いるように促し、説得しました（使徒16章）。その日以来、ピリピの教会の人々は、人任せにして、ただ傍観するだけでは満足せず、行動することによって参加したいと願いました。また、ピリピのみにとどまらず、パウロとその一行のより広い宣教活動を支援しました。パウロは、そんなピリピの教会の信者たちの長年にわたる忠実さを称賛しました。

4:14 しかし、あなたがたは、よくもわたしと患難を共にしてくれた。**4:15** ピリピの人たちよ。あなたがたも知っているとおりに、わたしが福音を宣伝し始めたころ、マケドニヤから出かけて行った時、物のやりとりをしてわたしの働きに参加した教会は、あなたがたのほかには全く無かった。**4:16** またテサロニケでも、一再ならず、物を送ってわたしの欠乏を補ってくれた。**4:17** わたしは、贈り物を求めているのではない。わたしの求めているのは、あなたがたの勘定をふやしていく果実なのである。**4:18** わたしは、すべての物を受けてあり余るほどである。エパフロデトから、あなたがたの贈り物をいただいて、飽き足りている。それは、かんばしいかおりであり、神の喜んで受けて下さる供え物である。**4:19** わたしの神は、ご自身の栄光の富の中から、あなたがたのいっさいの必要を、キリスト・イエスにあって満たして下さるであらう。

う。**4:20** わたしたちの父なる神に、栄光が世々限りなくあるように、アメン。（ピリピ人4：14－20）

オークポイント教会には、重要なミッション部門があります。あなたがより広い世界で教会の使命に参加することができるための重要な部門です。仲間と共に宣教旅行に行くことも、祈りと金銭的な贈り物で宣教師を支援することも、「与え、受け取ることによって、パウロと分かち合った」ピリピの教会の足跡をたどっています。私たちの宣教が機能していることを知り、より完全に参加できるように、ミッション部門のチームに是非、声をかけてください。

～終わりの挨拶と祝祷：4：21-23

4:21 キリスト・イエスにある聖徒のひとりびとりに、よろしく。わたしと一緒にいる兄弟たちから、あなたがたによろしく。**4:22** すべての聖徒たちから、特にカイザルの家の者たちから、よろしく。**4:23** 主イエス・キリストの恵みが、あなたがたの霊と共にあるように。（ピリピ人4：21－23）

パウロが「カイザルの家に仕える者たち」からの挨拶を含めたことは、なんと相応しいことでしょうか。パウロは、ローマの最高領域の人々をキリストへの信仰に導きました。イエス様を知り、イエス様を知らせる。それがパウロにとってすべてでした！

ディスカッションの質問

1. 第3章と第4章では、非常に多くの実用的なトピックを紹介しています。ノートを確認しながら、成長するのが難しいトピックをいくつか選択してください。それらを選んだ理由を書き留めるか、話し合しましょう。
2. キリストをより親密に知るために成長した経験を説明してください（ピリピ3:10）。または、キリストをもっと知るために成長する旅に出て、立ち往生していると感じていることを説明してください。
3. キリストを信じたために苦しみを経験したことがありますか。その経験とは何でしたか？「**1:29** あなたがたはキリストのために、ただ彼を信じるだけでなく、彼のために苦しむことをも賜わっている。」（ピリピ 1:29）。
4. 恐れと不安を経験し、それについて神に感謝の気持ちをもって伝え（祈り）、そして状況のすべてを理解できなくても、超自然的な平和を感じられた経験がありましたか？
5. 「喜び」と「幸せ」の違いをどのように表現しますか？物事がうまくいかないときに「喜ぶ」ことは簡単ですか、それとも難しいですか？「喜び」という言葉は、この短い手紙

の中で17回出現します（見つけてみましょう）。パウロは獄中にもかかわらず、その様な喜びを体験することができた秘訣は何だと思いませんか？